

第8章 整備

<整備イメージ>宮の範囲や大きさの表示

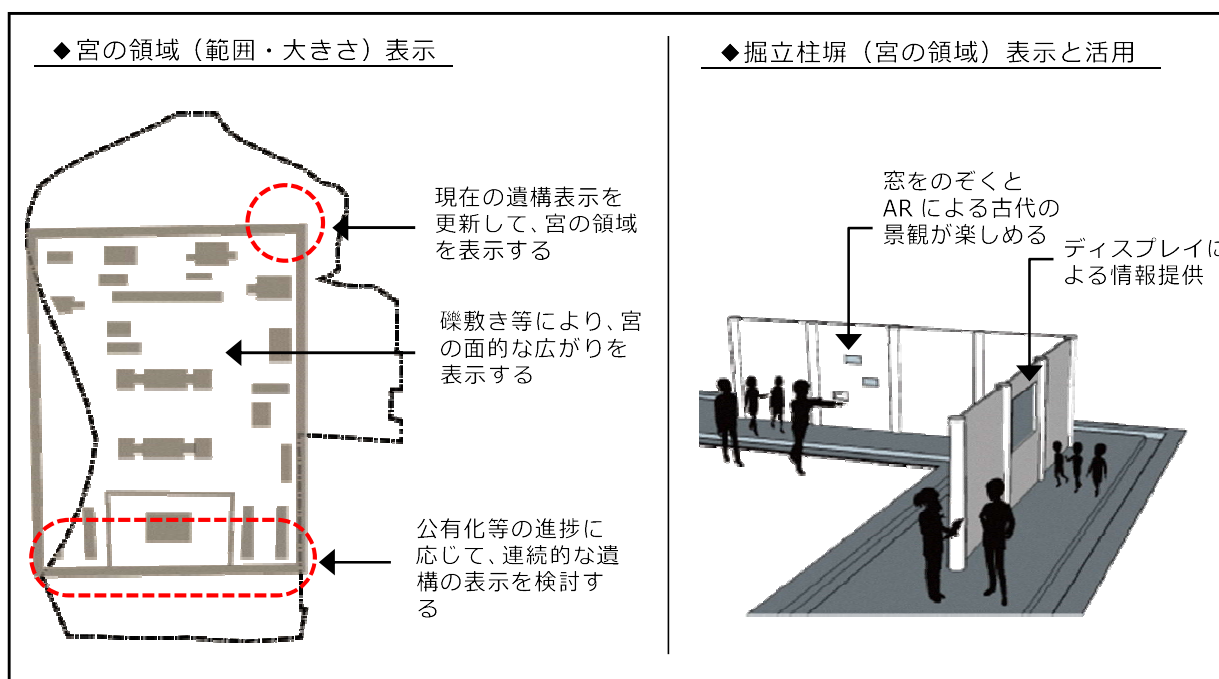
- ・宮の範囲や大きさがよくわかるよう、内郭の四隅部分の構造（掘立柱塀等）を仮設構造物等によって模式的に表示する。
- ・一部を学術的検証に基づいて復元するほか、先進的な情報提供システムを組み込んで、塀の構造等についての解説や築造にまつわるストーリーを紹介するなど、さまざまな付加機能を検討し、来訪者が興味を持って近づきたくなるよう工夫する。
- ・内郭を石敷きや礫敷きにして面的な広がりを示すなど、宮の存在を印象づける表示を行う。
- ・内郭南面については、公有地化や発掘調査の進捗に応じて、門や塀などの構造物を設置し、連続的な遺構表示となるよう検討する。



写真 8-3 柱（基礎）構造等の比較表示
武蔵国府跡国衙地区



写真 8-4 面的な遺構の表示
一乗谷朝倉氏遺跡



<整備イメージ>往時の建物等の復元

- ・飛鳥宮跡の往時の宮の様子を「見える化」するための手法の一つとして、飛鳥宮跡を代表し、活用の核となる建物等の復元を検討する。

- ・復元の対象となる建物・工作物やその手法については、今後も引き続き発掘や調査研究を行い、学術的検証を経て決定する。また、新たな知見に基づく改良を容易に行えるようなものとする。
- ・古代を彷彿とさせる景観と、現存する歴史的風土・景観との連続性が保たれるよう配慮する。
- ・復元を含む建物等の遺構表示を有効に活用するため、往時の宮中儀礼等を再現した行催事などにも利用可能な構造を検討し、宮殿内や前庭で何が行われ、どのような使われ方をしていたのかについて、来訪者が想像し理解できるようなものとする。
- ・乙巳の変の舞台となった飛鳥板蓋宮や、「日本」誕生の舞台となった飛鳥浄御原宮など、異なる時期の宮についても理解が深まるよう、建て方や見せ方を工夫する。
- ・設計から復元等が完了するまでの過程を公開し、楽しく見られるよう工夫する。



写真 8-5 復元建物
(さいくう平安の杜正殿)



写真 8-6 復元建物
(平城宮東院西建物)

イ 多様な手法による宮廷生活の再現

- ・一部の建築物、塀や側溝等の区画施設、石敷き等の復元・実物展示、道具や調度品等の再現展示、及び儀式の再現等により宮廷生活を再現する。
- ・前殿や南正殿の建築物、南面その他の外塀の復元等の遺構の可視化を通して、往時の飛鳥宮跡を身体的に体感できる空間にすることに加え、今後、応用が進むであろうCGやMR（複合現実）等による復元映像の投影、儀式の再現や体験型プログラム、案内誘導アプリ等のソフトの充実を図る。
- ・MRの活用については、建築物など構造物だけでなく、往時の宮廷に仕えた人々の姿も再現することにより、より身近に飛鳥宮跡を感じてもらおう仕掛けづくりとそのための設備整備を行う。
- ・祝祭や行催事の開催に活用できる仮設的な遺構表示を検討する。
- ・当時使用されたであろう道具等の再現や展示解説を行い、飛鳥時代の宮廷生活を感じ取れる仕掛けづくりを行う。
- ・最新の情報処理技術を用いた映像・音声等による歴史展示プログラムを提供する。
- ・現地説明会やイベント開催等に必要な広場空間、電気設備等のハード整備、及び体験型プログラムやインタープリターの養成などソフト整備を推進する。

第8章 整備

ウ ガイダンス施設（歴史学習・交流・管理運営拠点）の整備

- ・メインエントランスとなる内郭南方地区（1－2地区）付近に現地での歴史学習を補助する解説展示や、飛鳥地域全体の歴史文化資産等の案内を行うガイダンス施設を整備する。
- ・ガイダンス施設は、遺物や遺構の実物展示を行うことに加え、映像や音声など工夫した屋内展示を行うことで、より飛鳥宮跡の価値を学ぶことができる場所にする。
- ・管理運営に参画する団体等が活動するために必要な休憩所、駐車場、倉庫、打合せスペース等を備えた管理運営拠点施設の整備も行う。
- ・現明日香村役場建物等の活用について検討する。

エ 整備状況に対応した活用と日常管理運営を見据えた施設整備

- ・日常的な清掃や施設の補修、イベント機材の搬出入等のための管理車両の進入路や仮設構造物の設置空間、大型クレーンなどの工事車両の寄り付き等が可能な動線整備を検討する。

(2)飛鳥地域全体の活性化に活かすための整備

①地域住民や来訪者が快適に過ごせる空間を創出する

ア 休憩施設や便益施設の適正配置

- ・飛鳥宮跡とその周辺施設を繋ぐ周遊ルートを設定し、既存施設の配置を踏まえて必要となる休憩施設やトイレ、駐輪場、駐車場等のサービス施設の整備を行う。
- ・休憩所、トイレ、売店等のサービス施設や歴史的風土を活かした視点場を整備する。

イ 誰もが利用しやすいバリアフリーに配慮した施設整備

- ・都市公園等移動円滑化基準等に基づくバリアフリー園路、休憩所等を整備する。

②周辺の歴史文化資産等とのネットワークを構築する

ア 飛鳥京跡苑池をはじめとする周辺の歴史文化資産等と連携した周遊・情報ネットワークづくり

- ・飛鳥宮跡を飛鳥周遊ルート上に位置づけ、サイン整備やガイドツアー等で関係機関と連携した施設整備、情報発信を行う。
- ・誘導サイン等デザインの統一、イベント企画や情報発信内容の共有と分担を図る。
- ・飛鳥の歴史展示を行うガイダンス施設に来訪者の休憩・交流機能を整備する。

(3)重要な観光資源として地域の魅力向上に貢献するための整備

①多様な来訪者に対応したサービスの提供

ア 様々な来訪者に応じた歴史展示・解説や道案内の提供

- ・案内誘導・解説サイン、復元模型、パンフレット、音声ガイド、点字、スマホアプリ、インタープリター等の様々な手法により情報提供を行う。